

# いのち 生命の力が輝く時 ~その7~

※プライバシー保護のため、事実と少し変えています。

やりたいことがあるから変わろうとする子どもがいる。  
 どうにかしたいから、今できることから始める子どもがいる。  
 一方で、ひたすら眠り続けて壊れそうな自分を守る子どもがいる。  
 今の自分を認める子どもは、必ず生命の力を発揮する…。

子どもの生命（いのち）の力が輝くためには、親や教師がそこに「居てあげる」ことが大きな力となることについて、197号と198号で考えてみました。親と教師は、子どもにとっては縦の関係の人となります。今号と次号の2回に分けて、斜めの関係の人（社会）について考えてみようと思います。

高校をやめて4年間のひきこもりをした青年に、大学に行くことを考えるきっかけを与えたのは、一人の友人との会話でした。大学を卒業する友人が語りかけます。「大学は良いぞ！その気になればいくらでも勉強ができる。お前、勉強好きやろ。大学に行ったらどうだ…。」この先どうしようかと悩んできた青年は、「これから働くのはまだ無理。かといって、このまま家に居るのは嫌だ。不安はあるが、何かあったらその時に考えよう。」と動くことにしました。親に「予備校に通いたい」と相談し、予備校のお金を振り込みました。金額の大きさに手が震えたと言います。

中学でいじめに遭い、人の目が怖くなったA君。今も、遠くに出かけるのは緊張します。ずっと定時制高校に行って野球をしたいと思っていました。しかし、今のままの自分では定時制高校に毎日通い続けるのはできそうにありません。親をがっかりさせたくなかった

ので、「高校よりもバイトをしたくなった」と伝えることにしました。そのことを知り合いのおじさんに相談してみました。おじさんは「そうなあ。やろうと思っても、不安が大きくなってしまうと苦しいなあ…。そういう時ってあるよなあ。」と理解を示してくれました。

おじさんと話をしているうちに、「本当はバイトもしたくないけど、高校に行くことと比べたら、がんばれそうであること。それに高校はお金がかかるので、親に負担をかけたくない」気持ちを言葉にすることができました。おじさんは、「友人に通信制高校をしている人がいるけど、結構値段は安いみたいだったよ。ちょっと連絡してみようか。」とその場で連絡をしました。値段とスクーリングのことを聞くと、A君は「バイトよりもその高校の方に興味がわきました」と目を輝かせました。その後、とんとん拍子で決めていき、この春から高校に通うことになりました。「不安はあるけど、何かあったらその時に考えます。」と期待で胸を膨らませています。

斜めの関係の人（社会）は、親や教師と違って、直接の利害がないために、本人が気軽に話をすることができます。雑談以上相談未満の関係の人（社会）です。

**寄付のお礼** 二宮さん（豊後大野市在住）より、ご寄付がありました。ありがとうございました。

**おねがい**

**原稿をお寄せ下さい**

- 感想・体験 ●伝えたい情報
  - その他不登校に関すること
- <メール> toiwase@hoshinokai.net  
 <FAX> 097-576-9489

原稿は、FAXかメールでお寄せ下さい。掲載の際に匿名・インシヤルなど希望する場合は、そのことを書き添えて下さい。

**ご寄付のお願い**

活動を継続・発展させていくために寄付や切手等の寄贈をお願いしています。力をかけて下さい。尚、寄付・寄贈していただいた方は会報で紹介させていただきます。

郵便振替

<口座記号番号> 01710-8-142651  
 <加入者名> 不登校を考える星の会

## 第64回不登校シンポジウムに60名の参加



2月25日（日）にホルトホール大分で、不登校シンポジウムが開かれました。学校安全・安心支援課のご挨拶（取り組みの説明）があるなど、有意義な研修会となりました。今回のキーワードは「社会的自立」です。講演では、加嶋代表が「不登校・ひきこもりの子どもが社会的自立をするのは『今を生きるに徹する』ことではないか」と問題提起をしました。シンポジウムでは、当事者の体験を聞いた後、中島さん（自

立支援センター相談員）と山本さん（定時制高校教諭）が実践を紹介しながら、支援のあり方について意見を述べました。中島さんは「本人が求めることは支援するが、それ以上に私に会いに来てくれるよう、その子にとって『居てあげる』存在になることが大切ではないか。むしろかしいけども」と述べました。山本さんは「子どもには、『無理するなよ』といつも言っています。それでも頑張ろうとするので、リポDを渡しなす。」と笑顔で話してくれました。子どもに対して「人生は何度でもつまずいたり失敗して良かよ」というまなざしが、社会的自立の支援になっていると感じました。

「アンケートの声」  
 ■少しホッとしました。自分だけが苦しいんじゃないということを強く感じました。  
 ■親も失敗して良いんだなと思いました。  
 ■当事者の「休める場所があれば、やっていける」の言葉が心に残っています。

## 県の教育行政と不登校を考える親の会で意見交換会を持ちました

2月14日（水）に、大分県下7つの「不登校を考える親の会」と、私学振興・青少年課、学校安全・安心支援課、教育センター教育相談部の3機関との意見交換会が開かれました。星の会からは、戸高・中島・衛藤・加嶋が出席しました。



**4月の例会予定**

- 昼の大分例会…4月7日（土）13:00～16:30
- 別府例会…4月7日（土）19:00～21:00
- 豊後大野例会…4月12日（木）19:00～21:00
- 津久見例会…4月13日（金）19:30～22:00
- 夜の大分例会…4月20日（金）19:00～21:30
- 湯布院例会…4月26日（木）19:30～21:30

**会報発送作業**

- 日時：3月29日（木）14:00～
- 場所：明治明野公民館和室
- お尋ねは河野さん（080-5272-9360）まで

会報発送のボランティアを募集しています。協力していただける方は河野さんまで連絡をください。